

別記様式第1号(第四関係)

道の駅やちよ周辺地区活性化計画

千葉県八千代市

令和6年2月

1 活性化計画の目標及び計画期間

計画の名称	道の駅やちよ周辺地区活性化計画				
都道府県名	千葉県	市町村名	八千代市	地区名(※1)	道の駅やちよ周辺地区
				計画期間(※2)	令和6年度～令和8年度

目 標 : (※3)

道の駅やちよを拠点として、道の駅やちよ周辺地区の活性化を図るため、道の駅やちよ・八千代ふるさとステーションの拡張(老朽化・機能不足・狭隘化の改善等)を行い、合わせて、実施している農畜産に関する各種体験事業(収穫体験・酪農体験等)やイベント等を拡充し、当該事業を農家・市内キャンプ場等と結び、グリーンツーリズムの促進・交流人口の増加を図る。さらに、地区農産資源を活用した新商品開発を進め、さらなる賑わいの創出を図り、新たな来館者の確保に繋げ、農村地域の関連所得の増大・活性化[農産物販売数増→所得の増加→農業・酪農の継続・新たな担い手の確保]を目指す。

グリーンツーリズムについては、八千代市観光振興計画に「グリーンツーリズムコンテンツの推進」及び「道の駅やちよ周辺エリアの交流人口の増加策の推進」等を位置づけており、当該施設の農業体験事業等を市内キャンプ場や宿泊施設等と繋げ、宿泊客に自然、文化、人々との交流を提供する。さらに、道の駅やちよの販売農家と協議を行い、新たな受入れ体制の促進を図る。

具体的な目標として以下の3点を掲げる。

- ① レジ通過者数過去3年間(令和4・3・2年度)の平均488,133人(地域外)と各種講座参加者過去3年間(令和4・3・1年度 ※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、講座等の開催数が著しく少ないことから、平均値に使用しない。)の平均8,506人(地域外)を合わせた496,639人を581,368人(年間84,729人増)とする。
- ② 道の駅やちよ・八千代ふるさとステーションの各店舗(農産物直売所、農産物加工販売施設)の計画期間前過去3年間(令和4・3・2年度)の平均売上高721,444千円から、当該施設整備による事業効果発現後(令和8・9・10年度)における目標売上高を年間売上高平均844,979千円(年平均増額123,535千円)とする。
- ③ 当該地区の農産資源を活用した新たな商品開発を年間3件(令和8年:3件、令和9年:3件、令和10年:3件)行う。

目標設定の考え方

地区の概要:

本計画の対象である道の駅やちよ周辺地区は、市の北東部、市の中央を流れる新川に隣接する地域であり、八千代市第5次総合計画において自然環境保全エリアに位置づけられ、水田や畑、樹林地が広がるほか、谷津・里山が見られるなど、緑豊かな自然環境に恵まれた地域である。

他方で、当該地区においても、農家の全体数は減少傾向にあり、かつ、後継者不在となる農家も少なからず存在する。本地域の農業経営を考える中で上位の課題となっている。

また、当該地区にある道の駅やちよは、湾岸人口密集地域や船橋市などの中核都市との良好なアクセスや、緑豊かな自然環境という地の利を活かし、全国の先駆けとなる農産物直売や農産加工品の展示販売、体験型農園等を通じて、農産物生産者と都市住民とのふれあいの場を創出し、平成9年7月の開設以来、順調に来館者が増加、平成19年度には81万人を超えるなど、農産物生産者と地区外の方との交流施設として、道路利用者はもとより、市民にも愛され、市民の農業への理解と関心や農産物生産者の経営意欲の向上を図る等の役割を担ってきた。

しかしながら、当該施設は開設から約26年が経過し、先行道の駅が故の施設の機能不足・狭隘化・老朽化が顕在化するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響や道の駅やちよを取り巻く環境の変化などから、近年の来館者数は減少傾向にある。さらなる道の駅来館者の確保や活性化は、地域農業の活性化の面からも、急務である。

加えて、令和3年6月に防災道の駅に選定されたことを受け、令和3年度には、学識経験者を会長とし、市、民間有識者及び関係機関等からなる「防災道の駅やちよ整備検討会」を立ち上げ、「防災道の駅やちよ整備コンセプト」及び「防災道の駅やちよ整備計画」を策定。整備にあたっては、単なる防災施設の強化整備のみでなく平常時の道の駅やちよのさらなる賑わいを創出し、平常時と災害時ともに拠点として機能するような整備を目指すこととした。

現状と課題

課題① 快適空間の確保及び地域農産物販売面積の拡充

新型コロナウイルス感染症拡大等の影響下においても、道の駅やちよの直売所では、毎日開館時間前に行列が生じるなど、販売額は一定程度維持している。しかしながら、平成9年に開設した施設は老朽化・機能不足が著しいことや、新型コロナウイルス対策のソーシャルディスタンスの確保が困難な状況のため、施設空間の整理・拡大(快適空間の確保)が急務となっている。地域農産物販売面積についても、農産物の種類の増加等に伴い、狭隘化しているため拡充が必要である。

課題② 農畜産関連イベント等の拡充(現在取り組んでいる農畜産業に関する各種体験のさらなる推進と楽しさの周知)

市全体としても、農業・酪農家の高齢化や労働力不足や、耕作放棄地の増加、後継者不在の経営耕地が半数を占める状況にある。こうした中、道の駅やちよは、農畜産関係者等の相互交流や農業知識・技術の向上を図ること等を目的に運営されており、当市の第5次総合計画等において、道の駅を拠点とした施策が位置付けられている。これらの現状を踏まえ、道の駅やちよを中心とした農畜産関連イベント等の拡充により、交流人口の拡大、特産品のPR(調理方法・美味しい食し方、農産物の旬などを身近に感じる。)及び新たな担い手の確保などを図っていく必要がある。

課題③ さらに来館者の確保・農村地域の関連所得の増大(道の駅やちよのさらなる賑わい(価値と楽しさの周知)+出荷販売数拡大など→所得の増大→新たな担い手)

来館者数の減少などの影響により、農作物等の販売額が減少傾向にあることなどから、当該地区農産物の強み・価値(安全・新鮮・美味しいなど。)の情報発信や、新たな商品の開発などにより、さらに来館者を確保し、農村地域の関連所得の増大を図る必要がある。(農業・酪農の継続、新たな担い手の確保)

今後の展開方向等(※4)

当該地区の活性化を図るため、道の駅やちよ・八千代ふるさとステーションの拡張(老朽化・機能不足・狭隘化の改善等)、農畜産関連イベント等の拡充(農畜産業に関する各種体験の更なる推進・交流人口の増加)及び地域農産資源を活用した新商品開発(農村地域の関連所得の増大)を行う。農産物販売数増→所得の増加→農業・酪農の継続・新たな担い手の確保を目指す。

現在の施設に内在する施設の老朽化、機能不足、農産物販売場所等の狭隘化の改善・施設空間の整理・拡大を行い改善を図るとともに、さらに来館者の確保などを図るため、農畜産関連イベント等を拡充し、現在取り組んでいる農畜産に関する各種体験の更なる推進と楽しさの周知を図る。

農畜産関連イベント等については、農業体験事業、農業情報の提供等に関する事業、農業ボランティア推進事業及び農業研修会事業(料理教室・農作物フェア等)を拡充し、交流人口の拡大・農産物の販売促進・新たな担い手の確保を図る。特に特産品のPR(調理方法・美味しい食し方、農産物の旬などを身近に感じる。)に力をいれ実施する。合わせて地域農産資源を活用した加工の取組推進等により新商品を開発し、さらに来館者の確保及び農村地域の関連所得の増大を図る。

なお、グリーンツーリズムについては、八千代市観光振興計画に「グリーンツーリズムコンテンツの推進」及び「道の駅やちよ周辺エリアの交流人口の増加策の推進」等を位置づけており、当該施設の農業体験事業等を市内キャンプ場や宿泊施設等と繋げ、宿泊客に自然、文化、人々との交流を提供する。さらに、道の駅やちよの販売農家と協議を行い、新たな受入れ体制の促進を図る。

当該活性化計画区域に沿って流れる新川については、広域の水辺利用の促進等を図るための「印旛沼・印旛放水路かわまちづくり計画」に基づき、道の駅やちよに隣接する川辺の水辺拠点整備を進めており、これらの整備との相乗効果が期待できる。

さらに、道の駅やちよが、令和3年6月に国土交通省の「道の駅」第3ステージの取組である「防災道の駅」に選定されたことに伴い、道の駅やちよにおいて防災倉庫・防災トイレや国道16号とのアクセス強化、駐車場改修等の整備が行われる予定であり、これらの整備は、道の駅やちよの活性化や賑わいの創出に期待できる。

【記入要領】

※1 「地区名」欄には活性化計画の対象となる地区が複数ある場合には、すべて記入する。

※2 「計画期間」欄には、法第5条第2項第4号の規定により、定住等及び地域間交流を促進するために必要な取組の期間として、3年から5年程度の期間を限度として記載する。なお、農用地保全事業により農用地等の省力的かつ簡易な管理又は粗放的な利用を行う等の場合にあっては、地域の実情に応じた期間を記載する。

※3 「目標」欄には、法第5条第3項第1号の規定により、設定した活性化計画の区域において、実現されるべき目標を、原則として定量的な指標を用いて具体的に記載する。

※4 「今後の展開方向等」欄には、「現状と課題」欄に記載した内容を、どのような取組で解消していくこととしているのかを、明確に記載する。

また、区域外で実施する必要がある事業がある場合には定住等及び地域間交流の促進にどのように寄与するかも明記する。

2 定住等及び地域間交流を促進するために必要な事業及び他の地方公共団体との連携

(1) 法第5条第2項第2号に規定する事業(※1)

市町村名	地区名	事業名(事業メニュー名)(※2)	事業実施主体	交付金希望の有無	法第5条第2項第2号イ・ロ・ハ・ニ・ホの別(※3)	備考
八千代市	道の駅やちよ周辺地区	地域資源活用総合交流促進施設(㊸地域連携販売力強化施設)	八千代市	有	ハ	

(2) 法第5条第2項第3号に規定する事業・事務(※4)

市町村名	地区名	事業名	事業実施主体	交付金希望の有無	備考
八千代市	道の駅やちよ周辺地区	農業体験事業	八千代市(指定管理者)	無	
八千代市	道の駅やちよ周辺地区	農業情報の提供等に関する事業	八千代市(指定管理者)	無	
八千代市	道の駅やちよ周辺地区	農業ボランティア推進事業	八千代市(指定管理者)	無	
八千代市	道の駅やちよ周辺地区	農業研修会事業(料理教室・農作物フェア 等)	八千代市(指定管理者)	無	

(3) 関連事業(施行規則第2条第3項)(※5)

市町村名	地区名	事業名	事業実施主体	備考
八千代市	道の駅やちよ周辺地区	防災道の駅八千代ふるさとステーション防災倉庫整備事業	八千代市	

(4) 他の地方公共団体との連携に関する事項(※6)

--

【記入要領】

※1 「法第5条第2項第2号に規定する事業」欄には、定住等及び地域間交流を促進するために必要な事業について記載する。なお、活性化計画の区域外で

※2 「事業名(事業メニュー名)」欄に記載する事業のうち、交付金を希望する事業にあっては、交付金交付に係る実施要領に記載されている交付対象事業の「事業名」とあわせ、()書きで、「事業メニュー名」を記載すること。

※3 「法第5条第2項第2号イ・ロ・ハ・ニ・ホの別」の欄には、交付金希望の有無にかかわらず、該当するイ・ロ・ハ・ニ・ホのいずれかを記載する。

※4 「法第5条第2項第3号に規定する事業・事務」欄には、上段の(1)の表に記載した事業と一体となって、その効果を増大させるために必要な事業等を記載する。

※5 「関連事業」欄には、施行規則第2条第3号の規定により、上段(1)及び(2)の事業に関連して実施する事業を記載する。

※6 「他の地方公共団体との連携に関する事項」欄には、法第5条第3項第2号の規定により、他の地方公共団体との連携に関する具体的な内容について記載する。

3 活性化計画の区域(※1)

道の駅やちよ周辺地区(千葉県八千代市)	区域面積(※2)	561.5
区域設定の考え方(※3)		
①法第3条第1号関係: 本市において、島田・米本・神野と呼称されている地域のうち米本団地等が存在する市街化区域を除いた市街化調整区域の面積561.5haを区域面積とした。 当該区域のうち、農林地の面積は、465.1haであり、これは当該区域の総面積の約83%を占め、また、本市の統計調査等によると当該地区全体の人口が3,145人であるのに対し、同地区の販売農家の人口は209人であるので、約6.6%になり、当該地区は農業が重要な事業となっている地域である。 出典: 1 区域面積: 農林業センサス 農業集落境界データ(平成27年), 市資産税課保有の地番一覧表(令和5年1月1日時点) 2 対象区域の人口: 住民基本台帳地区別人口集計表(令和2年3月末現在) 3 対象区域の販売農家の人口: 農林業センサス 10世帯員の状況(個人経営体) (1)年齢階層別世帯員数(令和2年)		
②法第3条第2号関係: 本市の人口は平成15年から令和5年までの間に約16.5%増加しているのに対し、当該地区の人口は約11.2%増となっている。市全体の人口に対する当該地区の人口比については平成15年は約1.55%であったのに対し、令和5年は約1.48%と概ね同じであり、市全体と同様となっている地域である。しかしながら、平成17年と令和2年の当該地区の販売農家数を比較すると509人から209人と約58.9%の減少となっている。 本事業により、道の駅やちよの農産物販売施設の拡充等を行うことにより、販売機会の拡大・地域産物の販売額の増加が図られ、併せてイベント等への市外からの参加者の増加・交流人口の増が見込めることから、地域及び農業の活性化に寄与するものとする。		
③法第3条第3号関係: 米本と呼称されている地域には、都市計画法に基づく用途地域及び既に市街地を形成している地域として米本団地等が存在する地域があるが、道の駅やちよ周辺地区の区域にこれを含んでいない。		

【記入要領】

- ※1 区域が複数ある場合には、区域毎にそれぞれ別葉にして作成することも可能。
- ※2 「区域面積」欄には、施行規則第2条第2号の規定により、活性化計画の区域の面積を記載する。
- ※3 「区域設定の考え方」欄は、法第3条各号に規定する要件について、どのように判断したかを記載する。

11 活性化計画の目標の達成状況の評価等(※1)

目標の達成状況の評価については、施設整備後から毎年度、事業実施主体の八千代市によるモニタリングを行い、目標の達成状況について検証する。また、有識者・地域農産物関係者・テナント・指定管理者等を含めた協議会においても検証・評価を行い、その結果を公表する。具体的な達成状況の評価は下記の区分に応じ当該各号に定める手法で行う。

- ア 交流人口の増加 令和8年8月～令和11年7月の指定管理者の行う指定管理事業及び自主事業の参加者の人数の合計(参加者リストを利用)
令和8年8月～令和11年7月のテナントのレジ通過者数の合計(POSデータを利用)
- イ 地域産物の販売額の増加 令和8年8月～令和11年7月のテナントの売上高(POSデータを利用)
- ウ 地区農産資源を活用した新商品開発(任意指標)

【記入要領】

- ※1 施行規則第2条第6号の規定により、設定した活性化計画の目標の達成状況の評価について、その手法を簡潔に記載する。
なお、当該評価については、法目的の達成度合いや改善すべき点等について検証する必要があるため、行われるものである。
その他、必要な事項があれば適宜記載する。

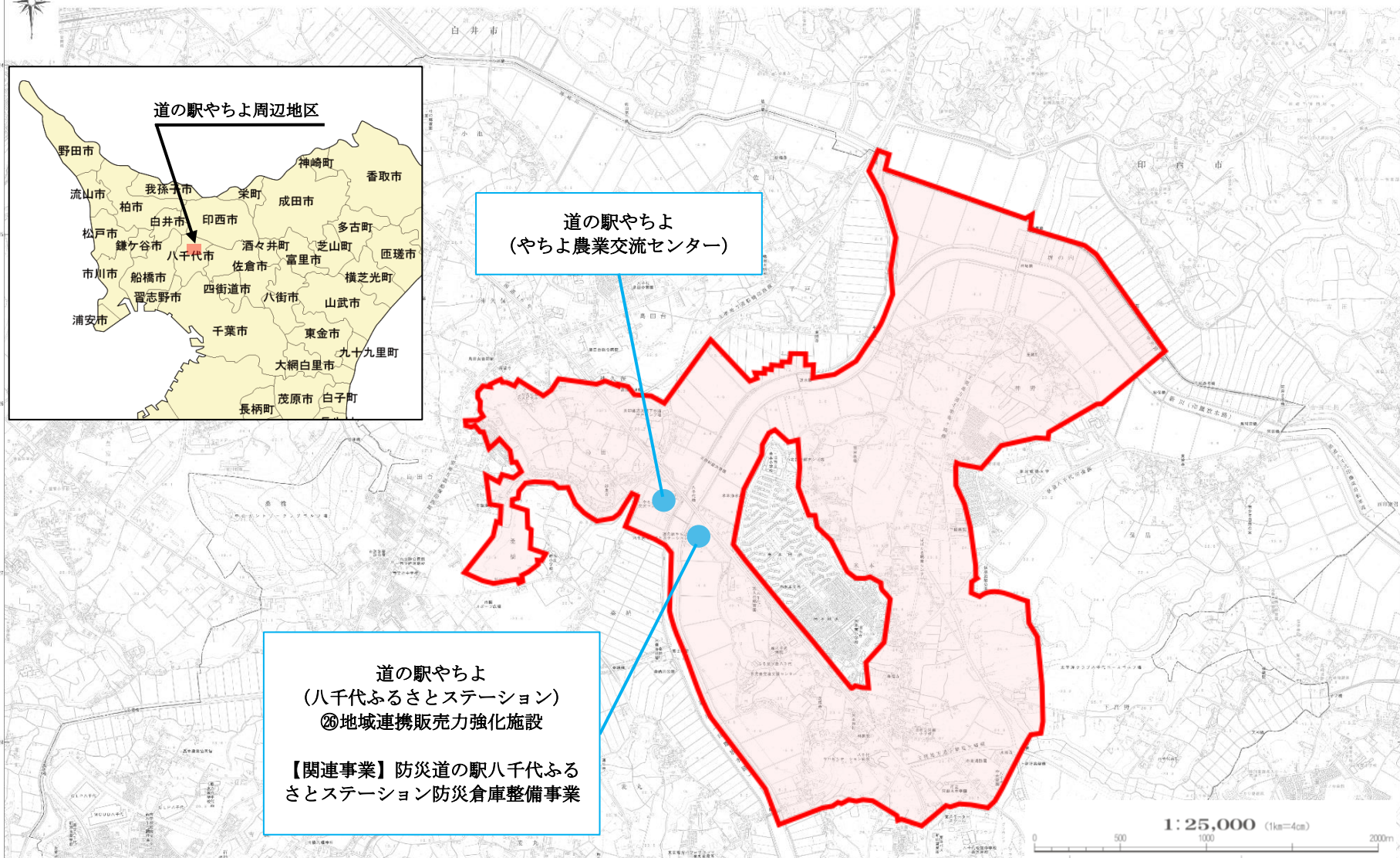
その他留意事項

- ①都道府県又は市町村は、農林水産大臣に活性化計画を提出する場合、活性化計画の区域内の土地の現況を明らかにした図面を下記事項に従って作成し、提出すること。

- ・設定する区域を図示し、その外縁が明確となるよう縁取りすること。(併せて、地番等による表示を記述すること)
- ・市町村が活性化計画作成主体である場合、5,000分の1から25,000分の1程度の白図を基本とし、都道府県が活性化計画作成主体である場合等区域の広さや地域の実情に応じて、適宜調整すること。スケールバー、方位を記入すること。
- ・目標を達成するために必要な事業について、その位置がわかるように旗上げし、事業名等を明記すること。
関連事業についても旗上げし、関連事業であることがわかるように記載すること。

- ②法第7条第2項の交付金の額の限度額を算出するために必要な資料を添付しなければならないが、その詳細は、交付金交付に係る実施要領の定めるところによるものとする。

道の駅やちよ周辺地区活性化計画 区域図



(参考様式1-1)

農山漁村発イノベーション整備事業(定住促進・交流対策型)事業実施計画

計 画 主 体 名	計 画 期 間
ちばけんやちよし 千葉県八千代市	令和6年度～令和8年度

<連絡先>

担当課	電話番号	FAX番号	メールアドレス
八千代市経済環境部農政課	047-421-6750	047-484-8824	nousei4@city.vachyo.lg.jp

【記入要領】

- 計画主体名
- ・市町村名にはふりがなをふること。
 - ・共同で作成する場合は、全ての計画主体を掲げるとともに、代表となる計画主体には(代表)と記載すること。
- 計画期間
- ・計画期間は活性化計画の計画期間を記入すること。
- 連絡先
- ・共同計画の場合は行を追加し、全ての計画主体の連絡先を記入すること。
- メールアドレス
- ・当該交付金に係る連絡に利用できるメールアドレスを記入すること。

I 事業活用活性化計画目標

事業活用活性化計画目標	事業活用活性化計画目標の設定根拠
農観連携・グリーンツーリズムの促進	道の駅やちよ・八千代ふるさとステーションの老朽化・機能不足の改善及び施設空間の整理・拡大、狭隘化している地域農産物販売面積の拡充を行い、合わせて農業関連イベント等の拡充を図り、交流人口の拡大並びに農産物等の販売促進・認知度の向上を図る。 また、地域農産資源を活用した加工の取組推進等により新商品を開発し、新たな来館者の確保及び農村地域の関連所得の増大・活性化〔農産物販売数増→所得の増加→農業・酪農の継続・新たな担い手の確保〕を目指す。 グリーンツーリズムについては、八千代市観光振興計画に「グリーンツーリズムコンテンツの推進」及び「道の駅やちよ周辺エリアの交流人口の増加策の推進」等を位置づけており、当該施設の農業体験事業等を市内キャンプ場や宿泊施設等と繋げ、宿泊客に自然、文化、人々との交流を提供する。さらに、道の駅やちよの販売農家と協議を行い、新たな受入れ体制の促進を図る。

II 評価指標

第1評価指標(必須)	具体的数値目標の算出方法	
	具体的数値目標	
交流人口の増加	84,729人増／年	計画区域における年間交流人口増加数: 84,729人 計画区域外からの入込客数581,368人【目標値】－計画区域外からの入込客数496,639人【現状値】 1 目標値 レジ通過者数(区域外) 488,133人(令和4・3・2年度の3か年平均)【現状値】×(計画面積1,895.75㎡/現状面積1,391.99㎡=1.3618991516)×売場効率86% ①571,718人 2 目標値 収穫体験・各種講座(区域外) 8,506人(令和4・3・1年度の3か年平均※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、収穫体験・各種講座を概ね実施していないため。)【現状値】+収穫体験等772人+講座等372人 ②9,650人 581,368人(①+②)【目標値】-496,639人【現状値】

第1評価指標の設定根拠

計画区域外からの入込客数【現状値】は、過去3年間の各店舗（農産物直売所、農産物加工販売施設）レジ通過者（区域外）（令和4年488,385人、令和3年度484,122人、令和2年度491,893人）の年間平均488,133人を実績として、計画区域外からの入込客数【目標値】は、拡張（老朽化・機能不足・狭隘化の改善等）による延床面積の増加率を乗じたものと、年間約100回を超える各種講座等（収穫体験・体験農園・酪農体験・料理講座・講習会・イベント等）を実施しており、【現状値】は、過去3年間の参加者数（令和4年度・令和3年度・令和1年度※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、各種講座の開催を概ね取りやめていたため含めない。）の年間平均8,506人を実績として、増加者数は、収穫体験等は年間772人、料理体験等は年間372人を積み上げて増加させ、レジ通過者数と各種講座等の参加者を合わせて、【目標値】とした。

■【現状値】レジ通過者数

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	合計	平均
レジ通過者数	488,385	484,122	491,893	1,464,400	488,133

■【目標値】レジ通過者数

	令和8年度 (令和8年8月 ～ 令和9年7月)	令和9年度 (令和9年8月 ～ 令和10年7月)	令和10年度 (令和10年8月 ～ 令和11年7月)	合計	平均
レジ通過者数	571,718	571,718	571,718	1,715,154	571,718

■【現状値】各種講座等参加者数

	令和4年度	令和3年度	令和1年度	合計	平均
収穫体験等	7,719	7,652	6,814	22,185	7,395
料理講座等	1,142	805	1,386	3,333	1,111
合計	8,861	8,457	8,200	25,518	8,506
【現状値】					496,639

■【目標値】各種講座等参加者数

	令和8年度 (令和8年8月 ～ 令和9年7月)	令和9年度 (令和9年8月 ～ 令和10年7月)	令和10年度 (令和10年8月 ～ 令和11年7月)	合計	平均
収穫体験等	8,167	8,167	8,167	24,501	8,167
料理講座等	1,483	1,483	1,483	4,449	1,483
合計	9,650	9,650	9,650	28,950	9,650
【目標値】					581,368

具体的数値目標

84,729 人増/年

第2評価指標（任意）

具体的数値目標

具体的数値目標の算出方法

地域産物の販売額の増加

123, 535千円増(3年間平均)

農産物等（農産物直売所・農産物加工販売施設）の販売額の増加額：123,535千円＝
地域産の農産物等の販売額844,979千円【目標値】－地域産の農産物等の販売額721,444千円【現状値】
目標値＝現状値×（計画面積1,895.75㎡/現状面積1,391.99㎡＝1.3618991516）×売場効率86%

第2評価指標の設定根拠

農産物等の販売促進を図るため、道の駅やちよ・八千代ふるさとステーションの拡張(老朽化・機能不足・狭隘化の改善等)整備による延床面積の増加率を乗じて、具体的数値目標とした。

■ 具体的数値目標 123,535千円増 (3年間平均) (単位:千円)

売上目標		現状値		増減
令和8年度 (令和8年8月～令和9年7月)	844,979	令和4年度	687,897	157,082
令和9年度 (令和9年8月～令和10年7月)	844,979	令和3年度	696,773	148,206
令和10年度 (令和10年8月～令和11年7月)	844,979	令和2年度	779,661	65,318
合計	2,534,937	合計	2,164,331	370,606
3年間平均	844,979	3年間平均	721,444	123,535

第3評価指標(必須)		具体的数値目標の算出方法
具体的数値目標		
商品開発件数	3件／年	令和8年8月～11年7月の評価期間中に農産物等を活用した加工品等, 新たな商品開発件数
第3評価指標の設定根拠		
農産物直売所, 農産物加工販売施設において, 新商品開発を行う。(加工品・総菜・スイーツ・レストランメニュー 等) 令和8年度(令和8年8月～令和9年7月): 3件, 令和9年度(令和9年8月～令和10年7月): 3件, 令和10年度(令和10年8月～令和11年7月): 3件		
評価期間(原則として3年間の効果発現状況を把握する期間)	評価報告予定年(評価期間の終了直後の9月末日まで)	
令和8年8月～令和11年7月	令和11年	

Ⅲ 温室効果ガス排出量の削減目標

温室効果ガス排出量削減目標	温室効果ガス排出量削減目標の設定根拠

【記入要領】

全般

・必要であれば適宜欄の拡大、行の追加をすること。

事業活用活性化計画目標

・事業活用活性化計画目標の項目は実施要領別記3の別紙に掲げる項目から選択するものとする。

評価指標

・評価指標の記載に当たっては実施要領別記3及び「事業活用活性化計画目標の評価指標の設定について」により記入すること。

温室効果ガス排出量削減目標・発電施設の整備を実施する場合に記載

※実施要領別記3の第2の1の(1)のイに記載の発電施設の単独設置を実施する場合、Ⅰ及びⅡは記載不要。

事業活用活性化計画目標の評価指標の設定について

農山漁村発イノベーション整備事業(定住促進・交流対策型)を活用するに当たっては、実施要領別記3に定める事業活用活性化計画目標及びそれに対応する評価指標を設定し、その目標の達成に必要な事業メニューを実施することとする。評価指標の設定に当たっては、項目ごとに以下に定めるところによるものとする。

1. 第1評価指標(必須)及び第2評価指標(任意)について

評価指標	事業活用活性化計画目標の評価指標の項目及び設定の考え方
1	雇用者数(新規就農者等を含む。)の増加 ○設定する目標は計画区域において整備された施設の常時雇用者数の増加数とし、以下により求めることとする。 新規常時雇用者数(人) $= (\text{活性化計画により整備した施設における常時雇用者数(人)}【目標値】 - \text{既存施設等の常時雇用者数(人)}【現状値】)$
2	地域産物の販売額の増加 ○設定する目標は計画区域において生産された農林水産物の販売額の増加額とし、以下により求めることとする。 計画区域において生産された農林水産物の販売額の増加額(千円) $= (\text{地域産の農林水産物の販売額(千円)}【目標値】 - \text{地域産の農林水産物の販売額(千円)}【現状値】)$
3	定住人口の維持・増加 ○設定する目標は計画区域における転入人数の増加数、転出人数の減少数、転入人数の減少の抑制数又は転出人数の増加の抑制数とし、以下により求めることとする。 計画区域における定住人口の維持・増加数(人) = 転入人数の増加数 = (転入人数(人)【目標値】 - 転入人数(人)【現状値】) 計画区域における定住人口の維持・増加数(人) = 転出人数の減少数 = (転出人数(人)【現状値】 - 転出人数(人)【目標値】) 計画区域における定住人口の維持・増加数(人) = 転入人数の減少の抑制数 = (転入人数(人)【目標値】 - 転入人数(人)【予測値】) 計画区域における定住人口の維持・増加数(人) = 転出人数の増加の抑制数 = (転出人数(人)【予測値】 - 転出人数(人)【目標値】)
4	滞在者数及び宿泊者数の増加 ○設定する目標は計画区域内の都市農山漁村交流施設等における滞在者数及び宿泊者数の増加数とし、以下により求めることとする。 計画区域内の都市農山漁村交流施設等における滞在者数及び宿泊者数の増加数(人) $= (\text{滞在者数及び宿泊者数(人)}【目標値】 - \text{既存施設等の滞在者数及び宿泊者数(人)}【現状値】)$
5	交流人口の増加 ○設定する目標は計画区域外からの入込客数の増加数とし、以下により求めることとする。 計画区域における交流人口の増加数(人) = (計画区域外からの入込客数(人)【目標値】 - 計画区域外からの入込客数(人)【現状値】)

注1: 目標値は、事業の効果発現後3年間の目標値を平均し、1年間当たりの値として定めることとする。

目標値の設定に当たっては、事業実施地区における過去の指標の推移や社会経済動向、関連する施策の状況等の事業以外の要因による影響等も勘案し、実現可能性のある合理的な目標値とすること。

注2: 現状値は、算出が可能な直近の3年間の実績値を平均し、1年間当たりの値として定めることとする。

(例: 活性化計画提出年度H28の場合、現状値は、H25=50、H26=100、H27=150を平均し100とする。)

注3: 予測値は、算出が可能な直近の3年以上の実績値に基づき、統計的な手法等により算出することとする。

注4: 評価指標1について、常時雇用者数は、厚生労働省の毎月勤労統計調査にて調査する常用労働者と定義される者を1年単位で算出した上で3年間の平均値を取ること。

※常時労働者とは、期間を定めずに、又は1ヶ月を超える期間を定めて雇われている者及び臨時又は日雇いの労働者で、前2ヶ月の各月にそれぞれ18日以上雇われた者をいう。

※常用労働者には、都道府県・市町村職員、事業主、法人の代表者及び無給の従事者は除くこと。

※小数第1位まで求めること(※小数第2位以下を四捨五入)。

(算出例①) 年間通して雇用する雇用者が、1年目5人、2年目及び3年目4人の場合: $(5人 + 4人 + 4人) \times 12ヶ月 \div 12ヶ月 \div 3年 = 4.33 \div 4.3$

(算出例②) 1年のうち、毎年4月から8月末までの5ヶ月間雇用する雇用者が、1年目3人、2年目及び3年目5人いる場合:

$(3人 + 5人 + 5人) \times 5ヶ月 \div 12ヶ月 \div 3年 = 1.81 \div 1.8人$

注5: 評価指標2について、比較する既存施設等がある場合には、目標値は新しく整備する施設における販売額とし、現状値は既存施設等における販売額とする。また、比較する既存施設等がない場合には、目標値及び現状値は、計画区域における農林水産物出荷額をそれぞれ算出するものとする。

注6: 評価指標3の転入人数及び転出人数は、注1から注3までに定める期間に、計画区域外から計画区域内へ転入した若しくは転入すると予測される人又は計画区域内から計画区域外へ転出した若しくは転出すると予測される人の合計値とする。なお、転入人数には二地域居住(都市の住民がその住所のほか農山漁村に居所を有することをいう。)をする者を含むものとする。

注7: 評価指標4について、活性化計画に地域連携販売力強化施設が含まれる場合は選択不可とする。

注8: 評価指標5の計画区域外からの入込客は、日帰り客だけでなく宿泊客等、全てを含めた入込客とする。

2. 第3評価指標(必須)について

事業活用活性化計画目標を評価するため、施設の利用計画等に応じて具体的数値目標を自由に設定する。

指標設定の例1 事業活用活性化計画目標: 子ども農山漁村の交流 第3評価指標: 小学生の自然体験教室開催○回

指標設定の例2 事業活用活性化計画目標: 農林水産物等の販売・加工促進 第3評価指標: 新商品開発○件

Ⅳ 活性化計画の目標及び事業活用活性化計画目標と交付対象事業の関連性

事業メニュー名	地区名	事業内容	事業規模等	実施期間	事業実施主体	全体事業費 (千円)	交付金要望額 (千円)	交付額 算定交付率	交付限度額 (千円)	活性化計画の目標及び 事業活用活性化計画目標との関連性	備考
㊼地域連携販売 力強化施設	道の駅やちよ 周辺地区	農産物直売所・農 産物加工販売施 設	延べ床面積 1,895.750㎡ 鉄筋コンクリート 造、一部鉄骨造 平屋建 ※新設285.950㎡ 木造含む。	令和6年度 ～ 令和8年度	八千代市	1,142,483	217,500	1/2	217,500	道の駅やちよの老朽化・機能不足の改善及び施設空間の整理・拡大、狭隘化している地域農産物販売面積の拡充を行い、合わせて農業関連イベント等の拡充を図り、交流人口の拡大並びに農産物等の販売促進・認知度の向上を図る。 グリーンツーリズムについては、八千代市観光振興計画に「グリーンツーリズムコンテンツの推進」及び「道の駅やちよ周辺エリアの交流人口の増加策の推進」等を位置づけており、当該施設の農業体験事業等を市内キャンプ場や宿泊施設等と繋げ、宿泊客に自然、文化、人々との交流を提供する。さらに新たな受入れ体制の整備を図るため、道の駅やちよの販売農家と協議を進める。 また、地域農産資源を活用した加工の取組推進等により新商品を開発し、新たな来館者の確保及び農村地域の関連所得の増大を図るためのものであり、活性化計画の目標達成に必要な事業である。	
合 計						1,142,483	217,500		217,500		

【記入要領】

- ・必要であれば適宜欄の拡大、行の追加をすること。
- ・創意工夫発揮事業である場合は、事業内容欄に一体として行う事業メニュー名及び一体的に行う必要性を併せて記載すること。
- ・事業メニュー名欄には、実施要領別記3の別表2の事業メニュー名を記入すること。
- ・地区名欄には、事業の実施地区名を記入すること。
- ・事業内容欄は、整備しようとする具体的な施設の内容を記載すること。
- ・事業規模等欄は、施設ごとの棟数と床面積、林道や森林管理道等の場合は地区名と延長など、それぞれの事業内容に応じた事業規模を記載すること。
- ・活性化計画の目標及び事業活用活性化計画目標との関連性欄は、これら目標を達成する上で、各々の事業の実施が必要な理由を記載すること。なお、別表2の(3)の㊸自然・資源活用施設の単独整備を実施する場合は記載不要。
- ・「農泊」の取組を実施する場合には、備考の欄にどのように「農泊」と関連するかを明記すること。
- (※)「農泊」とは、農山漁村において、日本ならではの伝統的な生活体験や農山漁村地域の人々との交流を楽しむ滞在(農山漁村滞在型旅行)をいう。

V 他の施策との連携に関する事項

連携する施策名	事業メニュー名	地区名	連携する施策と交付対象事業の関連性等
6 強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法(平成25 年法律第95 号)第13 条に定める国土強靱化地域計画に基づく施策	㊼地域連携販売力強化施設	道の駅やちよ 周辺地区	災害時における広域的な支援拠点として、また、国道16号利用者等の一時的な避難所など地域の防災拠点としての役割を担うための道の駅の整備に併せて道の駅の既存施設の改築及び増築を行い、地区の活性化を図る。

【記入要領】

- ①交付対象となる事業のうち、実施要領第16に掲げる施策と連携して実施する事業にあつては、連携施策名、連携施策の内容及び交付対象事業との関連性を記載すること。
- ②連携する施策名には、実施要領第16に掲げる施策を記載すること。
- ③事業メニュー名欄には、実施要領の別表2の事業メニュー名を記載すること。
- ④地区名欄には、事業の実施地区名を記入すること。
- ⑤必要であれば適宜欄の拡大、行の追加をすること。

農山漁村発イノベーション整備事業（定住促進・交流対策型）年度別事業実施計画の記入について

年度別事業実施計画の記入に当たっては以下によるものとする。

	項 目	記 入 上 の 注 意
1	様式の変更	様式の変更は、「事業別内容」の項における事業メニューの数に応じた行の追加及び以下に定めのあるものを除き行わないこと。
2	計画の提出年度	「計画の提出年度」の欄は当該計画を最初に提出した年度（該当予算年度）を記入すること。計画変更による再提出の場合であっても、当初提出に係る年度のままとすること。
3	新規・変更の別	計画を新規に提出する場合は「1」、変更計画として再提出する場合は「2」を記入すること。 なお、計画の変更による再提出の場合は行を追加し、変更した部分については、変更前を（ ）にし、変更後の内容を追加した行に記入すること。
4	都道府県	「都道府県名」の欄は、当該計画の計画主体が属する都道府県名を記入すること。
5	計画主体	「計画主体名」の欄は、当該計画の計画主体名を記入すること。 なお、共同申請の場合にあっては計画主体名に共同申請に係る計画主体を併記すること。
6	市町村名・地区名	事業を実施する市町村名、地区名を記入すること。
7	地域指定状況	事業を実施する地域の指定状況を記入すること。地域とは実施要領別記3別表1の交付額算定交付率欄に定める振興山村、過疎地域、離島振興対策実施地域、半島振興対策実施地域、特定農山村地域、特別豪雪地帯、急傾斜地畑地帯、奄美群島及び指定棚田地域とし、指定されている地域欄に「1」を記入すること。
8	計画期間最終年度	活性化計画の期間の最終年度を記入すること。
9	他の 施策 との 連携	離島振興計画
10		輸出促進条件整備事業
11		耕作放棄地の解消に向けた取組
12		地域再生計画
13		まち・ひと・しごと創生寄附活用事業
		離島振興法（昭和28年法律第72号）第4条第1項に規定する離島振興計画に基づいて実施する事業である場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。
		「輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）の認定規程」（令和2年4月1日農林水産大臣決定）に基づく認定を受けたGFPグローバル産地計画に従って実施する事業である場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。
		計画主体が耕作放棄地の解消に向けた取組を行う場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。 なお、耕作放棄地の解消に向けた取組を行う場合とは、計画主体が農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号）第5条に規定する農業経営基盤強化促進基本方針又は同法第6条に規定する農業経営基盤強化促進基本構想に沿って取組を実施している又は事業実施期間中に実施することが確実であると見込まれる場合とする。
		地域再生法（平成17年法律第24号）第5条第1項に規定する地域再生計画に位置づけられている事業である場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。
		地域再生法第5条第4項第2号に規定するまち・ひと・しごと創生寄附活用事業として行う事業である場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。

	項 目	記 入 上 の 注 意
14	定住自立圏共生ビジョン	定住自立圏構想推進要綱（平成20年12月26日総行応第39号総務事務次官通知）第6に規定する定住自立圏共生ビジョンに位置付けられている事業である場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。
15	国土強靱化施策	強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法（平成25年法律第95号）第13条に規定する国土強靱化地域計画に位置付けられている事業である場合には、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。
16	福祉、教育、観光等と連携した地域活性化に向けた取組	農山漁村の共生・対流等に係る連携プロジェクトに関連した取組に該当する場合は、「事業別内容」の項に「子ども農山漁村交流プロジェクトの取組」は「1」、「高齢者の生きがい及び障害者の就労雇用を目的とする福祉農園等の開設整備にかかる取組」は「2」、「農泊地域協議会（別記4第1に規定する地域協議会）と連携した取組」は「3」、「「みんなの廃校」プロジェクトの取組」は「4」、「重点『道の駅』の取組」は「5」、「ジオパークによる地域活性化の取組」は「6」、「世界農業遺産・日本農業遺産による地域活性化の取組」は「7」、「世界かんがい施設遺産による地域活性化の取組」は「8」を記入すること。
17	女性の能力の積極的な活用に向けた取組	農林水産業及び農山漁村の活性化のための女性の能力の積極的な活用について（平成24年4月20日付け経営第3691号農林水産事務次官依命通知）の基本方針に基づいた取組である場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。
18	地域別農業振興計画	中山間地農業ルネッサンス事業実施要綱に定める地域別農業振興計画の支援事業に本事業を位置づけている場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。
19	次世代農業農村振興計画	国営農地再編整備事業実施要綱に定める次世代農業農村振興計画に本事業を位置づけている場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。
20	指定棚田地域振興活動計画	棚田地域振興法（令和元年法律第42号）第8条第2項に定める指定棚田地域振興活動計画に、本事業を位置づけている場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。
21	みどりの食料システム法に基づく取組	以下の①から③までのいずれかに基づいた取組を実施する事業である場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。 ①みどり法第16条第1項に基づき認定を受けた環境負荷低減事業活動の促進に関する基本的な計画 ②みどり法第19条第1項に基づき認定を受けた環境負荷低減事業活動の実施に関する計画又はみどり法第21条第1項に基づき認定を受けた特定環境負荷低減事業活動の実施に関する計画 ③みどり法第39条第1項に基づき認定を受けた基盤確立事業の実施に関する計画
22	「デジ活」中山間地域	デジタル田園都市国家構想総合戦略（令和4年12月23日閣議決定）に規定する「デジ活」中山間地域として登録されている中山間地域等（その地域内において農林水産業又はその関連産業が営まれている中山間地域等に限る。）又はデジタル技術を活用しつつ、地域内外の多様な関係者が参加・連携し、及び多様な施策と連携して地域の社会課題の解決及び活性化が図られている地域（その地域内において農林水産業又はその関連産業が営まれている地域に限る。）において実施される取組である場合は、「事業別内容」の項に「1」を記入すること。

	項 目	記 入 上 の 注 意
23	事業メニュー番号	事業メニュー番号は、実施要領別記３別表２のものとし、「創意工夫発揮事業」は「８０」、「農山漁村活性化施設整備附帯事業」は「８１」とすること。
24	事業メニュー名	①事業メニュー名は実施要領別記３別表２の事業メニュー名、「創意工夫発揮事業」又は「農山漁村活性化施設整備附帯事業」を正確に記入すること。 ②複数の施設等の整備を計画する場合は、原則一つの事業メニュー毎、また、一つの事業メニューの実施が複数の要件類別、支援及び事業内容（以下「要件類別等」という。）に該当する場合には要件類別等毎に一行で記入すること。 ただし、一つの事業メニューの実施が複数の要件類別等に該当する場合において、交付額算定交付率が同じ要件類別等にあつては、「要件類別等番号」の欄のみを複数の行に番号を記載し、これ以外の欄は一行でまとめて記入しても構わない。 ③実施要領別記３別表２の事業メニュー⑬高生産性農業用機械施設により活動火山対策特別措置法（昭和４８年法律第６１号）第１９条第１項に規定する防災営農施設整備計画に基づく洗浄機械又は飼料作物栽培管理機械施設の整備を行う場合は「事業メニュー名」の欄に「高生産性農業用機械施設（活動火山対策事業）」と記入すること。
25	要件類別等番号	実施しようとする実施要領別記３別表３の事業メニューに対応する要件類別等の番号を記入すること。 なお、「創意工夫発揮事業」及び「農山漁村活性化施設整備附帯事業」に係る要件類別等については、これらを一体的に行うことにより効果が増大される事業メニューに係る要件類別等（複数の事業メニューの効果を増大する場合は代表の事業メニューの要件類別等）を記入すること。
26	事業内容及び事業量	事業メニュー毎に、整備しようとする施設等の規模、事業内容等について簡潔に記入すること。 （例）「農産物直売施設：１棟、５００㎡」、「トマト処理加工施設：１棟、３００㎡」「農産物包装機械：１台」棟 また、「本年度」の「事業内容及び事業量」の欄には本年度に実施しようとする施設等の規模、事業内容等を記入すること。 （例）「農産物直売施設：１棟、５００㎡」等
27	事業実施期間	事業メニューごとに、当該事業の実施期間を記入すること。 （例）令和２年度から令和４年度まで実施する場合は「R2～R4」と記載
28	事業実施主体	事業実施主体の名称を記載すること。 （例）●●農業協同組合、●●農業生産有限会社、●●森林組合、●●漁業協同組合 等
29	全体事業費	事業メニューごとの振興交付金の交付対象とならない事業費を含む総事業費を記入すること。
30	交付対象事業費	事業メニューごとの振興交付金の交付対象となる事業費のみを記入すること。上限事業費が適用される場合は、上限事業費を超える額を含まない事業費とする。
31	交付金額	事業メニューごとの交付金総額を記入すること。なお、ハード事業又はソフト事業ごとの交付金額の合計は交付限度額の合計の範囲内である必要があることに留意すること。なお、千円未満は切り捨てることとする。
32	交付額算定交付率	事業メニューごとに、実施要領別記３の別表３に定める交付額算定交付率を記入すること。
33	交付限度額	事業メニューごとに、交付対象事業費に交付額算定交付率を乗じて求められる額を記入すること。 なお、千円未満は切り捨てることとする。

	項 目	記 入 上 の 注 意
34	前年度まで	事業メニューごとに、前年度までに実施した事業に係る全体事業費、交付対象事業費及び交付金額を記入すること。
35	本年度	事業メニューごとに、本年度に予定している事業に係る全体事業費、交付対象事業費、交付金額、県費、市町村費、その他（農協等事業実施主体負担等）、本年度末進捗率、単年度交付限度額、仕入れに係る消費税相当額を記入すること。なお、単年度の交付金の合計額が単年度交付限度額の合計の範囲内である必要があることに留意すること。 また、「消費税仕入控除税額」の欄には、これを減額した場合には減額した金額を、同相当額がない場合には「該当なし」と、同相当額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記入すること。減額した金額を記入した場合は、「本年度」の欄の「交付対象事業費」、「交付金額」、「県費」、「市町村費」、「その他」の欄は当該消費税相当額を含まない額を、「全体事業費」の欄は当該消費税相当額を含む額を記入すること。
36	本年度までの累計	事業メニューごとに、本年度までの累計の全体事業費、交付対象事業費及び交付金額を記入すること。
37	翌年度以降（予定）	事業メニューごとに、翌年度以降の全体事業費、交付対象事業費及び交付金額の予定額を記入すること。
38	備 考	備考欄には、事業を行うに当たって、交付対象物件を担保にし、自己資金の全部又は一部について融資を受ける場合には「融資該当有」と記入の上、その内容（金融機関、制度資金名、融資を受けようとする金額、償還年数、その他必要な事項）が記載されている書類を添付すること。
39	①事業費計	「全体事業費」、「交付対象事業費」、「交付金額」、「交付限度額」、「県費」、「市町村費」、「その他」、「単年度交付限度額」、「消費税仕入控除税額」の合計をそれぞれ記入すること。
40	②市町村附帯事務費	市町村附帯事務費の額を記入すること。なお、附帯事務費の交付率は1／2以内とし、その取り扱い等については農山漁村振興交付金交付等要綱（令和3年4月1日付け2農振第3695号農林水産事務次官依命通知）及び農山漁村発イノベーション整備事業の附帯事務費及び工事雑費の取扱いについて（令和4年4月1日3農振第3019号農村振興局長通知）により定められていることに留意すること。
41	③県附帯事務費	県附帯事務費の額を記入すること。なお、附帯事務費の交付率は1／2以内とし、その取扱い等については農山漁村振興交付金交付等要綱（令和3年4月1日付け2農振第3695号農林水産事務次官依命通知）及び農山漁村発イノベーション整備事業の附帯事務費及び工事雑費の取扱いについて（令和4年4月1日3農振第3019号農村振興局長通知）により定められていることに留意すること。
42	総合計（①＋②＋③）	①事業費計、②市町村附帯事務費及び③県附帯事務費の合計額を記入すること。
43	共同で計画作成を行う場合の内訳	計画主体が共同で活性化計画の作成を行う場合であって、各々の計画主体ごとに交付金の交付申請手続きを行う予定である場合は、その計画主体ごとの内訳を記入すること。 また、内訳の合計は、それぞれの項目ごとに、①から③までに計上される金額と一致することに留意すること。 なお、交付金の申請を行う計画主体の数に応じて行の追加を行うこと。

Ⅵ 農山漁村発イノベーション整備事業(定住促進・交流対策型)年度別事業実施計画

	計画の提出年度	新規・変更の区別 新規「1」 変更「2」	都道府県	計画主体	市町村名	地区名	地域指定状況									計画期間 最終年度
			名称	名称			山村振興	過疎地域	特定農山村	半島振興	離島振興	豪雪地帯	急傾斜地	奄美群島	指定棚田地域	
事業別内容	R6	1	千葉県	八千代市	八千代市	道の駅やちよ周辺地区										R8
①事業費計																
②市町村等附帯事務費																
③県附帯事務費																
総合計(①+②+③)																
共同で計画作成を行う場合の内訳																
		〇〇町	事業費(ハード)													
			市町村等附帯事務費													
		××県	事業費(ハード)													
			都道府県附帯事務費													
			市町村等附帯事務費													

【記入要領】

・実施要領別記3の第2の1の(1)のイに記載の発電施設の単独設置を実施する場合、計画の提出年度欄には、発電施設等を附帯する活性化施設の整備を実施する際に作成した活性化計画の提出年度を記載すること。

全 体 計 画										
事業メニュー番号	事業メニュー名	要件類別等番号	事業内容及び事業量	実施期間	事業実施主体	全体事業費	交付対象事業費 (A)	交付金額 (千円未満切捨)	交付額算定 交付率 (B)	交付限度額 (C)=(A)×(B) (千円未満切捨)
26	地域販売力強化施設	2-第1-(2)	農産物直売所・農産物加工販売施設 1棟 1,895.75㎡, 実施設計	R6 ~ R8	八千代市	円 1,142,482,664	円 435,000,000	円 217,500,000	1/2	円 217,500,000
				~						
				~						
				~						
				~						
						1,142,482,664	435,000,000	217,500,000		217,500,000
						1,142,482,664	435,000,000	217,500,000		217,500,000

前年度まで			本年度									
全体事業費	交付対象事業費	交付金額 (D)	事業内容及び 事業量	全体事業費	交付対象事業費	交付金額 (千円未満切捨)	県費	市町村費	その他	年度末 進捗率 (E)	単年度 交付限度額 (C)×(E)－(D) (千円未満切捨)	消費税仕入 控除税額
円	円	円		円	円	円	円	円	円	%	円	円
0	0	0	実施設計 一式	75,747,773	61,410,690	30,705,000	0	45,042,773	0	14.1175%	30,705,000	該当なし
0	0	0		75,747,773	61,410,690	30,705,000	0	45,042,773	0		30,705,000	0
0	0	0		75,747,773	61,410,690	30,705,000	0	45,042,773	0		30,705,000	0

[illegible]